

3 北病棟の感染対策意識の向上

金子美穂（北入院棟 3 階）

I. はじめに

3 階北病棟は、循環器・心臓外科・血液内科の混合病棟である。抗がん剤治療患者も多く、感染対策を病棟全体で取り組んでいく必要がある。

また、当病棟では、吸引、清拭、陰部洗浄など体液汚染リスクがある処置を多く行っている。医療従事者の手指は院内感染を引き起こす病原体の感染伝搬経路とされており、特に抗がん剤治療中の患者においては重篤な感染症の原因となる可能性が高い。スタッフ一人一人の行動変容が必要と考えた。今回私は、リーダーシップ研修に参加し、病棟の感染対策意識の向上に向けた介入を行ったため、結果を報告する。

II. 役割・立ち位置

感染防止委員、実地指導者、イエローチームサブリーダー

III. 問題・課題

①去年 2 月のスタッフの手指衛生実施率は 1 患者に 1 日 1.6 回であり適切な場面・状況で正確な手指衛生が実施されていないと考えられた。各部屋の前、ワゴン、注射台、洗面台に速乾性手指消毒薬の設置を行っているが実践されていない現状があり、手指衛生の強化が課題として上がった。

②昨年度は、朝の環境チェックラウンドを実施し、患者のベッドサイドにて 5S の視点で環境チェックを実施していた。今年度は業務多忙があった。環境調整が不十分な実態があり、環境整備の強化が課題として上がった。

③処置を行う患者のベッドサイドには、PPE セットを設置しているが、手袋を装着しても、エプロンやゴーグルを装着しているスタッフは

少なく、特にゴーグルに関してはほぼ装着できていないのが現状であり、個人防護具の装着徹底が課題として上がった。

IV. 目標

感染防止委員としてリーダーシップをとり、病棟の感染対策を促進させる。

V. 実施・結果

①手指衛生の強化

＜介入＞7 月 パソコン・注射台に視覚材料を貼りだし注意喚起を行った。9 月 手指衛生強化月間 手指衛生・感染防護具の意識調査ポスターの掲示、アルコール消毒薬の使用量の張り出し、リーダー業務に毎朝の声掛けを追加した。サーベイランスの結果をコメントと共に掲示し、スタッフへフィードバックしていった。カンファレンスで情報伝達し、全スタッフが確認できるようサイボーズガルーンのメール機能を使用し、病棟スタッフへ周知した。

＜結果＞

- ・手指衛生サーベイランス 13 位 (1.6) → 6 位 (3.0) へ上昇した。
- ・スタッフの手指衛生の頻度がアップした。

②環境整備の強化

＜介入＞

看護安全委員と協力し、環境チェックラウンドを再開した。曜日ごとにベッドサイドとナースステーションの環境チェックを振り分け、短時間で集中して環境チェックが実施されるよう工夫した。夜勤の看護補助者へワゴンやナースステーションの環境整備、ハザード BOX の 8 割での交換を業務として依頼した。

＜結果＞

- ・ベッドサイド環境整備の意識づけに繋がった。

・ナースステーションの環境整備・ハザード BOX の 8 割での交換が徹底された。

③個人防護具の装着の強化

<介入>

10 月個人防護具の装着についてポスターの張り出しを行った。個人ゴーグルを勤務前にワゴンにセットするという病棟ルールを作って周知した。各チームから一名を指名し、「HAPPY 3 北感染対策チーム」を結成し、写真などを用いてスタッフの興味を引くポスター作成・掲示をした。

<結果>

- ・声掛けを行っているが個人ゴーグルを持ち歩くことがまだ徹底されていない。
- ・吸引時や尿の破棄などエプロン・ゴーグルを装着でいていないことが多い。
- ・リンクナースは活動の経過報告は行えたが、3 人で協力して活動することがなかなかできなかった。

VI. 評価

・9 月に手指衛生・個人防護具の意識調査を行ったあと、強化月間や病棟ルールを作成することで、スタッフの意識を高めることに繋がったと考えるが実践状況には個人差があり、病棟全体の感染意識向上には至らなかったと考える。定期的に強化月間を用いることで今後の意識向上を期待したい。

・個人防護具に関しては、声掛けや感染事例を掲示したが徹底できていない現状があり、新たな糸口での介入方法を考慮し来年度介入していきたい。

・今年度は夜間の看護補助者の導入があり、業務の振り分けがうまく行えた点は評価し、今後も夜勤補助者の業務内容検討し、感染対策の向上を目指したい。

・チームに一人ずつリンクナースを作ったが、業務が合わず一緒に活動することがあまりできなかったため、リンクナースの運営は今後の課題と考える。リンクナースを指名する際は、

管理者などを経由し、病棟の組織を活用することでもっとリンクナースとしての意識を高めることにつなげられたと考えるため、今後の運営では指名方法にも考慮していきたい。

・スタッフへ周知する際に、サイボーズガルーンを活用し、確実な伝達方法をとることができた。

VII. まとめ

・病棟の分析をすることで取り組むべき課題を明確にすることができた。目標や計画を立案し、看護助手などにも協力を依頼しながら介入することができた。

・自分一人の意見だけでなく、他部署の意見なども反映し適宜計画修正・追加して介入することができた。

・意識改革に対して、強制的ではなくスタッフが自ら行動に移すためにはどう介入すべきかという視点でリーダーシップについて考えることが出来た。

・リーダーシップをとる際に自分の立場からだけでなく、病棟の組織体制を意識して介入していくことも大切だと学んだ。

・病棟を動かす際には病棟の物資や人材・業務改善の状況などを把握し、うまく活用していくことが大切であると学ぶことができた。